

まいり

2007年8月4日(土)発行

姶良歴史ボランティア協会ニュース

# 歴史物語 No.2

たのかんさま

## 田の神さあ巡りをしませんか

姶良町郷土誌によれば、露座の田の神が33体、家持ち・持ち回りの田の神が18体とある。まだ郷土誌発行時に把握されてなかたものもありそうである。

姶良町の田の神の分布を見れば、山ぎわの方に多く、山から離れた東餅田には2体、そのうちの1体は移転されたものという。

このことは田の神が盛んに建立された18世紀に新田開発が行われた地域を示しているように思う。

同じように民間信仰もつ水神に比べ田のは具象的である。

水神の多くが石碑であるのに対比し、田の神は神官の型をしたり、僧の型であったりである。しかも神舞など表情豊かなものも多い。

この表情を見ていると、建立の目的は年貢に取られてしまう米の豊作より、田の神祭りにかこつけた酒盛りが目的だったのではと考えてみたくなる。

教養や芸術性で低く見られがちな百姓が残した「ほほえみの芸術」に較べ、現代のテレビから溢れ出る「お笑いの芸術」には300年間の歳月に耐えられるものがありそうにない。そう考えると300年間笑わせ続けている田の神を作り出した人々の文化の高さに畏敬の念を感じる。

〒899-5421

姶良町歴史民俗資料館気付

TEL 0995-65-1553 Fax 66-5820

発行 姐良歴史ボランティア協会



触田の田の神

(文と写真 宝泉)

## たのかんさあ 触田の田の神様 (町有形民俗文化財)

頭に大きなシキをかぶり、右手にメシゲをかかげ、左手には碗を持った神職の姿をしている。メシゲと顔は赤く塗られ、翻（ひるがえ）った袂（たもと）の表現には躍動感がある。袴（はかま）にたすき掛けの姿は神舞の場面であろう。福々しいユーモラスな顔立ち、動きのある所作など県下でも有名な田の神である。

石像の左手傍らに「元文二天日（1737）御田之神」と刻銘のある石碑もある。田の神像は現在地より120m程の稻留神社境内にあったが、昭和48年の九州自動車道建設のため稻留神社が移されたので、今の所に遷座された。

次の2体を含めた田の神様たちは、思川流域の田や用水路の整備の順に、上流の方から建てられたと云われている。享保21（1736）年に鶴木の田の神様、元文2（1737）年に触田の田の神様、東下の田の神の建立は石碑が行方不明のためはつきりしない。

3体とも大へんよく似ていて、しかも3体共に立派な作である。鶴木と触田のものには「前田喜八」作があるので、たぶん東下の田の神様も喜八の作であろう。

3体とも触田村が吉田郷であった時代（触田村は1737年に重富郷の一部となる）に建てられたようである。

（文 恒見勝則）

東下の田の神様

→

←  
鶴木の田の神様



触田の田の神様

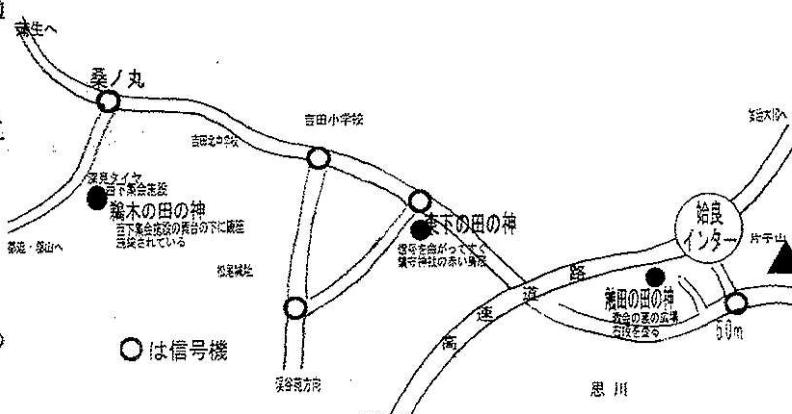


### [あじ]

◇触田の田の神 始良インター入口を50m過ぎて右折、約800m、パブテスト教会の裏の広場、稻留神社と並立

◇東下の田の神 始良インターより蒲生方向に800m（次の信号）で左折。すぐ赤い鳥居の鎮守神社の境内

◇鶴木の田の神 インターからさらに2km、桑ノ丸左折100m、深見タイヤの裏、西下集会施設（公民館 施錠あり）の中の舞台の前に鎮座



## 木津志の田の神様 (町有形民俗文化財)

木津志地区にある城野神社の手前に、田んぼを見晴らすように座つておられます。頭に大きなシキをかぶり、左手にメシゲ(しゃもじ)、右手にお椀を持ち、勇ましくタスキ掛けをしてうずくまるような姿の田の神様である。浅く彫られた顔は素朴な農夫のようで、豊作を願つて空を仰ぎ見ています。木津志を代表する大型の田の神様3体のうちの1つですが、他の2体とは作風が異なり、石工は別人と考えられます。



## 木津志堂崎の田の神様 (町有形民俗文化財)

頭にシキをかぶり、腰をかがめた姿で、空を仰ぎ見ています。タスキで袖をたくし上げ、両手には大きなメシゲ、袴の後は一回よじってあります。この姿は神職やその氏子が田の神に扮して神社のお祭りなどで舞う「田の神舞い」の所作を写したものであり、素朴ながらも大変力強く、活動的で、変化に富んだ表情などが親しみやすい田の神様です。

背面には下のような刻銘があります。



堂崎の田の神様

木津志の田の神様

文化二年　丑年  
奉寄進  
九月吉日　上木津志郷中

注 文化2年＝1805年

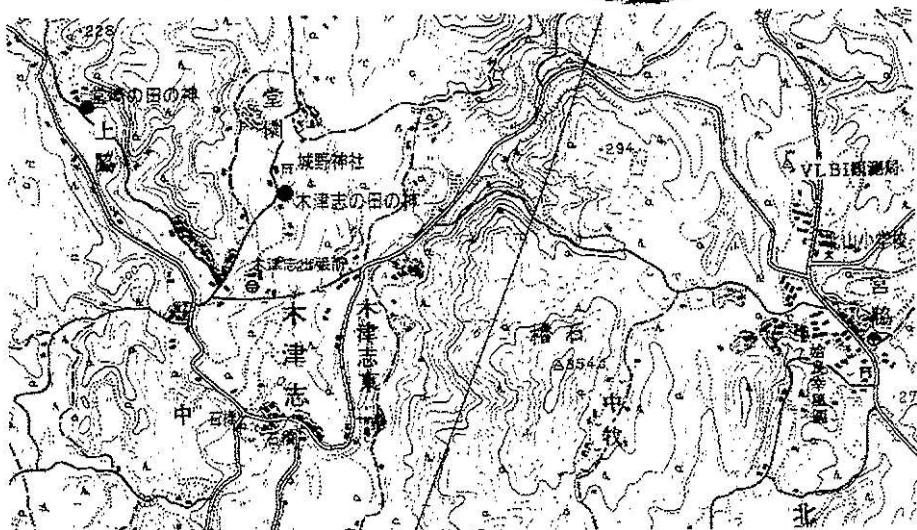
この田の神様は黎明館の企画特別展「田の神」に出品されました。木津志地区では明治から大正にかけていくつもの石橋も架げられており、今もここから南方200mには、「石切場」という小字名があります。この地でさかんに石が切り出され、看工達が活躍した時代を彷彿とさせます。

前述の2体の田の神と、今は宮島町の福岡造園さんに移されている、もと城ノ口にあった福岡家の田の神様の大型田の神様の3体が、この木津志に集中することはこの地の文化と歴史を理解するうえで特筆すべきことでしょう。(文 中野則子)



内山田  
田の神様

## 木津志地区の地図



田の神は信仰の対象です。  
敬意とエチケットを持って拝  
観させていただきましょう。

## 福岡家の田の神様

(町有形民俗文化財)



## Mini Museum (町内民間博物館案内)

町内には多くのミニ博物館があります。この広報では機会をみて、紹介していきたいと思います。

### ふるさと博物館みふね

「ふるさと博物館みふね」は、蒲生街道の三船郵便局に向かい合うようにあります。母体は「NPO 夢工房」の経営で入場料は無料。



←正面入口 月～土曜日 (10:00～17:00)・日曜日は休館です。中央の写真は館内の様子



一昔はどこにでもあった機械だそうですが、いまが最後でした。昭和四〇動た  
いていたのは昭和四〇年でした。



← 繩ない機  
終戦で復員した兄が、就職のため上京の靴を買おうと、懸命に踏んでいました。しかし、インフレでいくら踏んでも靴になりました。



手押し車 大口ではシャリキと言っていました。小学生のころ弟とモミを積んで精米遣らされた思い出があります。

住民の方々が古い農機具約50点の寄贈を受け、開館されたとのこと。農家生まれで70歳になろうとする筆者にも分からぬ農機具もあった。ほとんど人力や畜力が動力であった時代から、草刈り鎌までエンジン刈払機に変わったいま、若い人たちに歴史を振り向いてもらうには、この様な実物の展示が必要となると思う。手作り品などを売る店舗も兼ねている。

(文と写真 宝泉)

### ガイド要請のご案内

始良歴史ボランティア協会は本年4月に発足しました。5月の白銀坂ウォークに参加したり歴民館の特別展示に協力するなど地道に活動をしています。

「田の神さあ巡りをしませんか」と書きましたように、町内の史跡・文化財等の一般的な案内ができる準備をしています。たとえば「平松城と平安城」、「義弘公の足跡」、「山田の凱旋門と黒島神社」、「城野神社と田の神」、などテーマは自由です。

ボランティアですので無料(原則)です。子供会、老人会、小中学校などのほかご近所の仲良しグループでも要請されたら喜んで参ります。

申し込みは始良町歴史民俗資料館(0995-65-1553)までお願いします。

### 編集後記

第2号を発行できました。発行予定は9月でしたが、

史談会・歴民館共催の夏季講演会が8月4日に開かれますので、多くの人に知つてもらう良い機会と思って発行を早めました。

「ふるさと博物館みふね」の記事など馴れていたら取材のポイントも的確であったろうにと思われます。発展途上期ですのでお許しください。(宝泉)

始良歴史ボランティア協会

会長 橘木 雅晴

研修 松元淳一 新穂 守 西田 實 橘木雅晴

企画 濱口純則 恒見勝則 本多サチ子 新田やす子